

小学校英語教育への実践的提言（3）

深澤 清治 松浦 伸和 赤松 猛 伊賀 泰恵
石原 義文 井長 洋 五井 千穂 笹原 豊造
壇 泉 林 史 原田 良三

1. はじめに

平成20年3月に小学校の新学習指導要領が公示され、小学校5年・6年に外国語活動が新設された。新学習指導要領の全面実施は平成23年4月からであるが、外国語活動については、移行期間中の措置として、総合的な学習の時間時数を外国語活動に充て、教育課程に加えることができる状況となっている。また、各学校が平成23年度からの外国語活動の円滑な実施に向けて計画的に準備することが求められていることや、平成20年度内に全小学校5・6年生児童分の英語ノートが配布される見通しであることから、平成21年度から外国語活動を本格的に実施する小学校が急速に増加することが予想される。平成22年度からは、小学校で外国語活動を行った児童が中学校に入学してくるということである。

文部科学省による小学校英語活動実施状況調査（平成19年度）によると、全国の公立小学校の97.1%が英語活動を実施しているものの、6年生の平均活動時間数は年間15.9時間（月1コマ強の割合）にとどまっている。また、大下（2007）のアンケート調査（平成18年実施）によれば、「小学校英語活動を受けて、中学校が英語教育のあり方を変える必要があるか」という質問に対して、中学校英語科教員の1.5%が「強くそう思う」、36.4%が「ある程度そう思う」と回答している。すなわち、過半数の中学校教員が中学校の英語教育の現状を変えなければならないとは認識していないということである。筆者らも、中学校入門期の指導指針を得るために、新入生に対して入学前の英語学習経験を問うアンケートを実施しているが、小学校英語活動が中学校での英語学習に大きな影響を及ぼしているという実感が乏しく、アンケート結果を日々の授業に反映させているとは言えない状況である。

しかし、平成22年度以降、小学5年・6年で週1時

間の外国語活動を行ってきた児童が中学校に入学してくれば、中学校における英語指導のあり方を考える際に小学校の外国語活動は無視できない存在になるのではないだろうか。そこで、本論では、学習指導要領に基づいて外国語活動の位置付けを概観するとともに、小・中連携の観点から外国語活動について考察してみたい。¹

2. 学習指導要領から見る外国語活動

小学校学習指導要領に外国語活動が新設されたことの大きな意義は、小学校5年・6年の教育課程上にそれぞれ年間35単位時間（週1コマ相当）の授業時数が確保されたこと、そして、総合的な学習の時間で取り組まれていた英語活動とは性質を異にし、国として各学校において共通に指導する内容が示されたことであると考えられる。それを踏まえ、本節では、外国語活動の目標と内容について、学習指導要領を参考にしながら、小学校および中学校の課題を考察してみたい。

（1）目標

まず、小学校における外国語活動および中学校、高等学校の外国語の目標を併記してみる。

小学校〈外国語活動〉

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。（下線は筆者ら）

中学校〈外国語〉

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

(下線は筆者ら)

高等学校〈外国語〉²

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。

(下線は筆者ら)

これらを比較してみると、文言も共通した箇所が多く、学習段階に応じた「コミュニケーション能力の育成」という点では首尾一貫した目標設定となっている。もっとも、外国語活動は、国際理解教育の一環としての英語活動から進化してきた経緯もあり、体験や交流を重視し、「聞くこと」や「話すこと」を通して音声や表現に慣れ親しむことがねらいとされている。それに関連して、小学校学習指導要領解説外国語活動編(以下、解説)では、パターン・プラクティスやダイアログの暗唱など、音声や基本的な表現の習得に偏重した指導やスキルの向上のみを目標とした指導は、本来の外国語活動の目標とは合致しないとされている。

「国際理解」と「スキル向上」という目標を二項対立的に捉える傾向は、学習指導要領が公示される前に散見されるものであるが、大下(2007)や新里(2008)が指摘するように、小学校の外国語活動と中学校・高等学校における教科としての英語教育を差別化することよりも、外国語活動を小学校における「英語教育」と捉えることの方が、小・中・高の連携という観点からは、より重要なのではないだろうか。

(2) 内容及びその取り扱い

最初に、内容に関して、具体的な例が明記されている箇所を引用する。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

2. (1) オ

[コミュニケーションの場面の例]

(ア) 特有の表現がよく使われる場面

- ・あいさつ ・自己紹介 ・買物 ・食事
- ・道案内 など

(イ) 児童の身近な暮らしにかかわる場面

・家庭での生活 ・学校での学習や活動

・地域の行事 ・子どもの遊び など

[コミュニケーションの働きの例]

(ア) 相手との関係を円滑にする

(イ) 気持ちを伝える

(ウ) 事実を伝える

(エ) 考えや意図を伝える

(オ) 相手の行動を促す

これらの例は、中学校学習指導要領において「言語の使用場面の例」および「言語の働きの例」で示されている内容とほぼ同一である。小学校で学習したことを中学校で再び学習するというスパイラルなデザインにしようとする試みが窺えるが、外国語活動の内容と内容の取り扱いについて、特に、小・中連携の観点から留意すべきであろう事項について考察したい。

ア. 4技能の指導

第2 内容

1. (2) 積極的に外国語を聞いたり、話したりすること。

解説(p.10)では、「我が国におけるこれまでの外国語教育は、中学校から始まることされていた。従来は、あいさつや自己紹介など、音声を中心とした活動が入門期の活動として行われていた。しかし、こうした活動は、むしろ柔軟な適応力のある小学校段階になじむものである。また、従来の中学校外国語科では、指導において「聞くこと及び話すこと」の言語活動に重点をおくこととされていたが、同時に「読むこと及び書くこと」も取り扱うことから、中学校に入学した段階で4技能を一度に取り扱う点で、指導上の難しさも指摘されていた。そこで、外国語活動では、外国語を初めて学習することを踏まえ、児童に過度の負担をかけないために、「外国語を聞いたり、話したりすること」を主な活動内容に設定することとした。(下線は筆者ら)」とされている。

従来、中学校で行われていた「入門期」の指導(の一部)を小学校段階へ移行させるということは、少なくとも中学校入学時の英語授業のあり方は見直しを迫られていることになる。解説(p.19)においては、「外国語活動の指導においては、(中略)あくまで音声によるコミュニケーションを重視し、(中略)さまざまな工夫をしながら聞くことの時間を確保し、日本語とは違った外国語の音声やリズムなどに十分慣れさせるとともに、聞き慣れた表現から話すようにさせるなど、

児童にとって過度の負担にならないように指導することが大切である。(下線は筆者ら)」とされており、十分に聞かせた上で、コミュニケーションにおける定型表現や慣用表現を話させる諸活動を想定しているようである。

中学校の立場から見れば、従来の中学校入門期で扱う言語表現については、聞いたことや話したことはあるが、文字を介して理解したことはないという状態の生徒が入学してくることになる。中学校では、文字を介して、また場合によっては、文法的な知識として、それらの言語表現を生徒に再認識させる作業が行われることになる。小学校の外国語活動で取り扱われた言語表現が再び中学校で登場するというスパイラルな配置の意義は十分理解できるが、小学校段階の外国語活動において、「聞くこと及び話すこと」を重視して「読むこと及び書くこと」を排除することにより、中学校入学段階の生徒の負担や教員の指導の困難さが軽減するというのは疑問が残るところである。中学校に入って文字が導入されるのであれば、文字を介した「聞くこと及び話すこと」の指導が新たに必要となるであろう。

イ. 文字の指導

第3 指導計画の作成と内容の取り扱い

2. (1)

イ 外国語でのコミュニケーションを体験させる際には、音声面を中心とし、アルファベットなどの文字や単語の取り扱いについては、児童の学習負担に配慮しつつ、音声によるコミュニケーションを補助するものとして用いること。

解説 (p.19) によると、「アルファベットの活字体の大文字及び小文字に触れる程度の段階にとどめるなど、中学校外国語科の指導とも連携させ、児童に対して過度の負担を強いることなく指導する必要がある。」といったように、きわめて制限的な状況にある。さらに、現在の英語活動で広く取り入れられているフォニックスの指導に関しては、「発音と綴りとの関係については、中学校学習指導要領により中学校段階で扱うものとされており、小学校段階では扱うことはしていない。」と指導が禁じられている。菅(2008)は「フォニックスを取り入れたら、ペンマンシップを購入し、文字を正確に書けるようにするなどの行き過ぎた指導は、法令化された学習指導要領の逸脱と見られてもしかたがない」と指摘している。

ウ. 知識を目標としない指導

第3 指導計画の作成と内容の取り扱い

1. (3)

(前略) その際、言語や文化については体験的な理解を図ることとし、指導内容が必要以上に細部にわたったり、形式的になったりしないようにすること。

必要以上に細かい形式的な指導とは、解説 (p.14) の例示では、「単語を複数形にしたり、冠詞を付けたりすることなどを強調したり、知識として理解させたりすること、また、機械的に語句や文を暗記させたりすることなど」である。名詞の複数形や冠詞の問題は、バトラー後藤 (2005) のように、「単なる文法の一項目というよりは、英語での認知表現に根源にかかわる一問題」という見方もあり、作文で複数形のsを付けない非母語話者を知的に障害があると疑ったアメリカ人教師のエピソードを紹介し、「たかが冠詞、通じればよい」という認識に対して批判的な研究者もいる。大城 (2007) も冠詞の有無がコミュニケーションの破綻につながることもあることを指摘して、中途半端なインプットが英語学習導入期に与えられることに対して警告を発し、指導者の研修の必要性を説いている。

適切で正確なインプットが与えられることが望ましいのは言うまでもないが、正しいインプットが与えられたとしても、「知識」の教授を目標としない外国語活動を通して、音声のみでさまざまな英文に触れることにより、中学校に入学した段階で、*I like dog. のような不完全な知識が化石化している状況は容易に想定できる。また、機械的に英文などを暗記させることに関して、中学校教員の間では、影浦 (2007) のように文法事項の定着を目指すドリル (drill) とより実践的なコミュニケーションを志向する活動 (activity) を区別する考え方が一般的になっていると思われる。さらに言えば、いわゆるコミュニケーション活動だけでは目標となる文法事項を習得させることは困難であり、そのコミュニケーション活動を成立させるためにもドリルが不可欠であると認識している教員が多いのではないだろうか。知識の獲得を目標としない外国語活動に中学校と同じ論理をあてはめるべきではないのかもしれないが、「機械的に語句や文を暗記させる」ことや「パターン・プラクティスやダイアローグの暗唱」に対して過剰に拒否反応を示すのは得策ではないと考える。学習者の年齢が低すぎるとパターン・プラクティスなどの抽象的な言語操作が理解できないこともあるが、小学校高学年くらいになると、言語の規則性に気付くなどのメタ言語知識が芽生えると言われて

いる。有効に活用していくことも考慮に入れるべきではないだろうか。

3. 教材から見る外国語活動

(1) 英語ノートと中学校教科書

本節では、平成21年度より外国語活動で主に使用される教材になるであろう英語ノート（試作版）と中学校入門期の教科書（中学校1年）を概観することにより、外国語活動および小・中の連携を考えてみる。

表1は小学校5年・6年の英語ノートと中学校1年の検定教科書の一つNew Crown English Course 1(三省堂)について、各単元で扱われているテーマと教材中で使用される英語表現をまとめたものである。英語ノートにおいて扱われている英語表現は基本的に現行の中学校1年生の教科書で取り上げられている範囲のものであることがわかる。

表1 小学校5年～中学校1年の接続

単元	英語ノート5年		英語ノート6年		NEW CROWN 1	
	テーマ	文法・表現	テーマ	文法・表現	テーマ	文法・表現
Les.1	世界のあいさつ	What's your name? My name is ---. Nice to meet you.	アルファベット (大文字)	That's right. Good job! A ~ Z	導入	英語の挨拶 身近な単語 アルファベット クラスルーム イングリッシュ
Les.2	感情・ ジェスチャー	How are you? I'm happy. etc.	アルファベット (小文字)	What's this? a ~ z	あいさつ・ 自己紹介	I am ---. You are ---. Are you ---? Yes, I am. No, I am not.
Les.3	数	How many? 数字	カレンダー	When is your birthday? My birthday is ---. 日付	友人の家	This is ---. Is this ---? Yes, it is. No, it is not. What's this? It's ---.
Les.4	自己紹介・ 好きなもの	Do you like ---? Yes, I do. No, I don't. I like ---. Thank you.	できること	Can you ---? Yes, I can. No, I can't. I can/can't ---.	好きなもの	一般動詞
Les.5	世界の衣装・色	I don't like ---. 色を表す語	道案内	Where is ---? Go straight. Turn right/left. Stop.	自然公園にて	複数形 How many ---? 命令文 Where ---?
Les.6	外来語・ 食べ物の注文	What do you want? ---, please.	国	I want to go to ---. Let's go.	沖縄	He[She] is ---. Who is ---? him, her, etc. When ---?
Les.7	クイズ	What's this? It's ---.	スケジュール	What time do you ---? At ---. I go to bed at ---.	介助犬	三単現の-s What time ---?
Les.8	時間割・科目	I study Japanese. etc.	劇	Please help me. What's the matter?	アメリカの学校	現在進行形 Whose ---?
Les.9	ランチメニュー	What would you like? I'd like---.	将来の夢	What do you want to be? I want to be ---.	ことば遊び	can
Les.10					UK・ナショナル トラスト	過去形 [規則・不規則動詞]

(2) 一般英語教材

ここでは、市販されている英語学習用教材 *WE CAN!* (McGraw-Hill出版) を英語ノートや検定教科書との比較資料・参考資料として提示する。表2はレベル1～3で扱われるテーマと英語表現をまとめたものである。³

このテキストのシリーズは、幼児期から小学校高学

年程度までの学習レベルに合わせて、student text starterからstudent text 6までの、7レベルのシリーズになっており、指導者がCD・ポスター・フラッシュカード・文具などを使いながら、英語のみで授業を進められるように作られている。各Unitには、話す活動・語句や文法・リズムと読み・フォニックスなどに分かれたレッスンがあり、レッスンごとに学習者が達成す

べきゴールが設定され、学習進捗の確認ができるようになっている。また、カリキュラムはスパイラルに組まれており、既習の表現や単語を復習できるように

なっている。

英語ノートと比べると、英文が文字として数多く提示されている点、見開き2ページごとに目標に到達で

表2 一般英語教材の接続

WE CAN! ①		WE CAN! ②		WE CAN! ③		
単元	テーマ	文法・表現	テーマ	文法・表現	テーマ	文法・表現
U1	私の友達	What's your name?/ How are you? What's this color? [色]	気持ち	It's nice to meet you. / How are you? I'm great, thanks. And you? / What's the matter? I'm hungry. [感情]	初対面の挨拶	I'm Jack./ What's your name? My name's Joe./ How old are you? Nice to meet you. / I, you, he, she
U2	私の体	Close your eyes. [身体の部分]	衣服	I like your hat! / Whose hat is this? It's not mine./Thank you./ You're welcome. I'm wearing a cap. [衣服]	誕生日	What's your dad's name? / His name is Jim. When's his birthday?/ my, your, his, her [月] [日付]
U3	私の家族	This is my brother. Nice to meet you. [家族]	行動	Can I speak to Miki?/ What are you doing? I'm watching TV.	海の動物	What's that? /It's a whale. What do you think about it(them)? I think it's (they're) big. / faster, the fastest / as scary as a shark [海の生物]
U4	誕生日	It's my birthday. / How old are you? I'm seven years old./ What's this shape? [数] [形]	自然	It's a snake. It's long. Look at the beautiful ...	キャンプ	What do you want to do in the morning? more exciting, the most exciting [動作]
U5	おもちゃ	How many do you have? [おもちゃ]	野生動物	It's an elephant. / Elephants are big. Where is the lion? / It's over there.	スポーツ	What sport do you like? / What sport do you want to try? What sport does your brother like?/ What sport does he want to try? [スポーツ]
U6	食べ物	Do you like pizza? / Yes, I like pizza. No, I don't like onions. [食べ物]	道順	Where's the train station? / Walk straight and turn left. How do you go to school? / I walk. [乗物] [場所・建物]	日課	What chore do you do?/ Do you take out the trash, too?/ Yes, I do sometimes. / What chores does your sister do?/ She sets the table./ Does she vacuum the floor?/ Yes, she does sometimes. [家事]
U7	動物	Do you have a pet?/ Yes, I do. I have a dog. [動物]	私の家	Welcome to our house./ Would you like to come in? I'll show you around. / The mouse is on the chair.	昨日と今日	What time do you get up in the morning? Yesterday, I went to bed at nine forty.
U8	曜日	What day do you like? / What's the weather like? [曜日] [天気]	私の物	Can I have some candy?/ Here you go. How many are there? / What's this? It's a computer game./ What are these? They're comic books. [文房具]	仕事	What does your dad do? / He's a teacher./Who's he? Where does he work? / Who are they? / Where do they work? [職業] [場所・建物]

きたかどうかの自己評価欄が設定されている点の特徴的である。例えば、レベル1 Unit 4 pp.34-35の目標は、I can say the names of three shapes. と I can find three shapes outside of home.の2つである。スキル向上を目標とした教材と英語ノートを単純に比較しても意味がないが、日々の外国語活動において、目標設定をはじめとした指導計画が結局のところ指導者に委ねられるという問題は、当面の課題として考えていかなければならない。

4. まとめにかえて（今後の課題）

外国語活動の導入により、長期的には小・中・高12ヶ年の英語教育のあり方を見直す必要が生じるが、中期的な課題として以下の点を挙げる。紙幅の都合もあり、論考は別の機会に譲りたい。(1) アジア諸国の小学校英語教育から何を学び、いかに日本独自の「小学校英語教育文化」を創り上げていくか。(2) 小学校高学年児童の読みたい・書きたいという意欲をどのように考えるか。(3) 外国語活動で培われた高いコミュニケーション意欲・学習意欲を中学校でいかに維持させるか。(4) 外国語活動におけるインプットとアウトプットの関係をいかに考えるか。(5) 外国語活動における具体的な目標をいかに設定するか。

註

1. 本論は学習指導要領の批判を目的としたものでもないし、小学校英語教育の是非を論じるものでもない。中・長期的な課題を整理し、明らかにすることの方が重要だと考える。
2. 平成20年12月に公表された新学習指導要領の案を引用している。
3. WE CAN!を取り上げたのは、他の教材よりも優れているからではなく、日本の小学校英語教育を意識して作成された教材だからである。

参考文献

- バトラー後藤裕子(2005)『日本の小学校英語を考える』三省堂。
- 樋口忠彦他(編)(2005)『これからの小学校英語教育』研究社。
- 菅正隆(2008)「英語ノートを使った外国語活動の授業」『英語教育』2008年9月号 pp.10-13 大修館。

- 影浦攻(2007)『新しい時代の小学校英語指導の原則』明治図書。
- 河原俊昭(編著)(2002)『世界の言語政策』くろしお出版。
- 河原俊昭(編)(2008)『小学生に英語を教えるとは?』めこん。
- 河添恵子(2005)『アジア英語教育最前線』三修社。
- Matsuka, Y, & McDougall, G (2009) WE CAN! STUDENT BOOK 1 McGraw-Hill.
- Matsuka, Y, & McDougall, G (2009) WE CAN! STUDENT BOOK 2 McGraw-Hill.
- Matsuka, Y, & McDougall, G (2009) WE CAN! STUDENT BOOK 3 McGraw-Hill.
- 松川禮子, 大下邦幸(編著)(2007)『小学校英語と中学校英語を結ぶ』高陵社書店。
- 松川禮子(監), 樋田光代(著)(2008)『小学校英語ホップ・ステップ・中学』文溪堂。
- 文部科学省(2008)『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』東洋館出版社。
- 新里眞男(2008)「中学校への連携をどうするか」『英語教育』2008年9月号 pp. 17-19 大修館。
- 岡秀夫, 金森強(編著)(2007)『小学校英語教育の進め方』成美堂。
- 大城賢(2007)「英語力の向上と鍛え方」岡秀夫, 金森強(編著)(2007)『小学校英語教育の進め方』pp. 70-75 成美堂。
- 大下邦幸(2007)「小中連携の実態: アンケート調査の結果から」松川禮子, 大下邦幸(編著)(2007)『小学校英語と中学校英語を結ぶ』pp. 25-61高陵社書店。
- 文部科学省ウェブページ
小学校及び中学校の学習指導要領等に関する移行措置ならびに移行期間中の学習指導について(通知)
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/news-cs/youryou/ikou/001.pdf
- 平成19年度小学校英語活動実施状況調査の主な概要
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/20103/08031920/001.htm
- 高等学校学習指導要領案
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/news-cs/news/081223/002.pdf